

TTC 山行実施記録表(提案)

2012年6月6日 報告者:佐藤末治(1/2)

山行名	奥秩父 甲武信岳 [ 2475m 長野県・山梨県・埼玉県]					
実施日	2012年6月2日(土)~3日(日)		1泊2日		往復マイクロバス利用	
天候/参加人員	天候:6/2 晴れ時々曇り、 6/3 晴れ時々曇り		レベル:★★		参加 14名	
パーティスタッフ	CL/計画: SL: 会計: 救護: 写真: ドライバー: <b>スタッフ名削除</b>					
参加メンバー	A班:		B班: <b>氏名削除</b>		以上男性 10名、女性 4名	
費用 <b>¥17,800-</b> カンパ金 ¥1,950-	内訳:マイクロバスレンタル料(@40,000×2) ¥80,000、 ドライバー謝礼(@18,000×2) ¥36,000 燃料代(@125×500/5) ¥12,500、 高速道路料金(@1,400+@1,550) ¥2,950、 甲武信小屋宿泊費(@7,500×14) ¥105,000、 入浴料(@700×14) ¥9,800 通信費 ¥1,000 支出合計 ¥247,250- 集金(@17,800×14) ¥249,200- 差額 ¥1,950 を TTC カンパ金とする。					
	歩行時間		休憩時間		行動時間	
	6/2	6/3	6/2	6/3	6/2	6/3
ガイドブック	4:10	3:55				
計画	4:10	4:05	1:15	0:15	5:25	4:20
実行	4:10	4:01	1:23	0:51	5:33	4:52
実行コースタイム記録						
◆6/2 1:54(小休10) 1:27(小休10) 本厚木駅前==相模湖 IC==談合坂 SA==須玉 IC==毛木平-----ナメ滝-----千曲川水源地標一 6:15 7:17 7:25-40 8:33 9:35-52 11:46 12:15 13:42-55 25 29 15 -----国境稜線-----甲武信岳山頂-----甲武信小屋(泊) 14:20-28 14:57 15:10 15:25						
◆6/3 21 1:55(小休20) 2:00(小休20) 25 甲武信小屋-----木賊山-----近丸新道分岐-----徳ちゃん新道登山口-----西沢溪谷入口(東沢山荘)=== 5:40 6:01-06 8:01 10:01-07 10:32 11:08 ==ほったらかし温泉==勝沼 IC==談合坂 SA==相模湖 IC====本厚木駅前 11:50 12:52 13:23 13:48-14:05 14:10 15:25						
概要・特記事項・反省事項等						
◆6/2 出発日の天気予報はまずまずとなり、多少の雨に会うのは覚悟の上で出発する。スタート地点の毛木平にはすでに数十台の車が停まっていた。さすがに人気の山である。ここからは千曲川の源流である西沢にそってゆるやかにのぼって行く。新緑と溪流のせせらぎはまさにマイクスイオンの宝庫である。 2 時間弱でナメ滝に到着する。さっそく滝直下の河原に散らばって昼食休憩をとる。河原はさすがに涼しく、長そでのシャツが欲しくなる。西沢は山の北斜面であり、全体が苔むした樹林帯である。 西沢の水流も細くなり、残雪がちらほら現れるとそろそろ千曲川の水源地も近い。ここが 367kmを経て日本海にそそぐ日本一長い大河、信濃川の水源地である。山肌からこんこんと湧き出すきよらかな清水に感動し、全員がのどを潤す。 ここから山頂までは傾斜がきつくなる。残雪も氷状に固まって滑りやすいため、用心のためアイゼンを装着する。ここから1時間で甲武信岳の山頂に到着する。 甲武信岳は甲州、武州、信州の分水嶺である。山頂には三角点もないが太平洋にそそぐ富士川、東京湾にそそぐ荒川、日本海にそそぐ信濃川の水源地であり、奥秩父のへそと言われる所以である。 山頂からの素晴らしい眺望は雲が多くて残念ながらお預け。金峰山が時々顔を出す程度であった。 甲武信小屋につき、屋根付きの屋外テーブルを確保して宴会を開いているとどしゃぶりの雨が降り出した。何という幸運か。我々より遅れて到着した登山客は雨に打たれ、カッパを着て下りてくる。						

夕食は定番のカレーライス。あまり期待していなかったが中々の味である。残念ながら酔ってしまいその他、何が付いていたか記憶がない(注:お決まりの福神漬とラッキョウの甘酢漬の他、ゴボウサラダ少々にたらみのフルーツゼリーのデザート)。

布団1枚に2人の混み具合であったが、疲れとアルコールの酔いも手伝い熟睡する(注:当日の小屋の宿泊客は約100名で、小屋2階の大部屋2室は満員。その他、テント場にテント約10張あり。小屋は15年前と変わらなかったが、トイレは立派に改修され、きれいになっていた。環境配慮型水洗式で和式3、洋式2。小屋宿泊者以外は、1回の利用料金50円徴収)。

### ◆6/3

二日目はかなりの確率で雨の予報であったが、幸運にも空は明るい。山小屋の徳さんも今日は大丈夫と太鼓判を押してくれた。我々の下る戸渡尾根はシャクナゲとミツバツツジが満開だそうだ。

小屋を出て木賊山の登りはかなりの残雪であるが、ステップがしっかりしているのでアイゼンを履かずに何とかやりすごす。木賊山の山頂は甲武信岳に比してわずかに6m低いのみであるが、樹林帯で展望はない。ここに三角点があるのが何とも不思議な気がする。

ここから1時間半ほど下るとシャクナゲの群生地だ。最初はつぼみだったシャクナゲが、高度を下げるに従いみごとなピンク色の花びらを見せてくれた。まさにシャクナゲのトンネル状態。これほど群生しているとは思っていなかったので大いに感動する。写真撮影にしばらく時間をとる(注:シャクナゲの樹は標高2400mの稜線にもあったが、蕾はほとんど付いていなかった。花が咲いていたのは、標高1900m付近の戸渡尾根中部から徳ちゃん新道上半分の標高1400m位まで。毛木平から甲武信小屋間では、一輪も見かけなかった。)

近丸新道を分け、徳ちゃん新道に入ると、こんどはトウゴクミツバツツジのお出迎えである。こちらもシャクナゲに負けず劣らず見事に咲き乱れ、疲れた我々を癒してくれる(注:咲いていたのは、標高1600~1300m位までの稜線)。

花も途絶えたところで迎えてくれるのはブナの新緑、続いてみごとな唐松林の新緑である。薄黄緑色の若葉の輝きは一服の清涼剤。山に登った者のみが味わえる至福のひと時である。

徳ちゃん新道の下りはかなりの急降下である。緊張を保って慎重に下る。このルートを登りに利用するのはかなり勇気がいる。もうすぐ登山口ということで香川県から来たパーティとすれちがった。年齢はさほどかわらないように見受けたが、さてあのパーティは無事山小屋にたどり着いたのか心配である。

林道に下りて30分弱歩き、西沢溪谷入口の東沢山荘で昼食休憩をとる。おすすめは山菜そばとのこと。

お天気もまずまずなので、入浴は甲府盆地の眺めがすばらしい「ほったらかし温泉」に決定する。Ph10.1のアルカリ単純泉。お肌つるつるの美肌の湯である。雲に隠れて残念ながら霊峰富士の眺めは得られなかった。Iさんは江戸っ子で熱めの風呂が好き。温めの温泉が不満だったらしい。

風呂をあがってから、お決まりの生ビールでのどを潤す。

時間も早かったため、高速はがらがらで15:25無事本厚木駅に帰着する。

### ◆さいごに

- 1.梅雨時前の天候は不安定で最後までリーダーを悩ませてくれる。マイクロバスのキャンセルが可能な3日前の7時まではあきらめずに様子を見る必要がある。
- 2.予想以上の残雪であった。アイゼンの携帯は大正解。